

# 筑波経済月報 No.110 2022. 9

## ■ 企業探訪

日本の食を支える物流ソリューション企業

関東総業株式会社／株式会社K・Sロジテム

## ■ 支店長のわがまち紹介

民間活力と市民目線を主軸にした地方創生の実現

古河市

## ■ 外部寄稿 DXはじめの一步

● 新東通信が提供する「マーケティング ソリューション」

● ～地域の事業者にとお金を循環させる～地域通貨プラットフォーム

## ■ 研究員レポート

保育の受け皿整備に向けた保育士確保への取り組み

筑波総研 株式会社



# 古河のまつり ～春夏秋冬～

歴史と文化が息づく関東の小京都茨城県古河市には、季節ごとに魅力的なお祭りがあります。

## 春：古河桃まつり

江戸時代初期、初代古河藩主 土井利勝が領地に桃を植えたことに由来する歴史的にも意義のあるまつりです。会場となる「古河公方公園」は、日本で初めて「メリーナ・メルクーリ国際賞」を受賞した公園で、満開時には5品種の花桃が桃源郷のごとく辺り一面をピンク色に染めあげることから、「日本一の花桃の里」と呼ばれています。

## 夏：古河花火大会(表紙写真)

2万発という全国トップクラスの数の花火が打ち上げられる関東屈指の花火大会です。河川敷という会場の立地を活かし、広範囲からメロディー付きで打ち上げられるスターメインや、高度約600m、直径650mという壮大なスケールで花開く三尺玉は、見る人を圧倒します。

## 秋：古河菊まつり

市内外の愛好家からなる古河市菊花会の会員が1年かけ、丹精込めて育てた菊を展示します。おなじみの盆養ぼんようのほか、懸崖や盆栽づくり、千輪咲など趣向を凝らした菊が並びます。特に、菊まつりのシンボルである五重塔や、多数の菊でかたどられた筑波山は見応えがあります。

## 冬：「関東の奇祭」古河提灯竿もみまつり

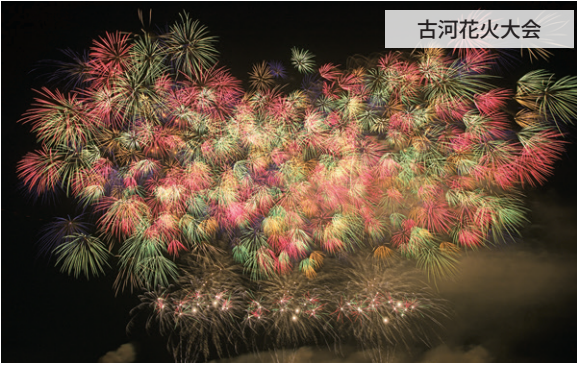
野木神社の神事の終着を待つ村人たちが、暖を取るために提灯を持って身体を揉み合ったのが原型です。その後、提灯の存在感を示すために竿が伸び、さらに互いの提灯の火を消そうと競い合い、20m近い竹竿の先につけた提灯を激しく揉み合いながら相手の提灯の火を消し合う現在の形になりました。竿が折れる音が響き、提灯がぶつかって火の粉が飛び散る中で揉み合う様子は勇壮で、迫力があります。

(写真提供：古河市)

古河桃まつり



古河花火大会



古河菊まつり



古河提灯竿もみまつり



### ◆古河公方公園

所在地：茨城県古河市鴻巣399-1

アクセス：車 東北自動車道館林ICから約20分  
圏央道境古河ICまたは五霞ICから約30分  
電車 JR宇都宮線古河駅からタクシー約10分  
東武日光線新古河駅からタクシー約10分

### ◆サンワ設計ネーブルパーク ふれあい広場

所在地：茨城県古河市駒羽根620

アクセス：車 東北自動車道加須ICから約30分  
電車 JR宇都宮線古河駅からJRバスで約15分

### ◆JR古河駅西口

所在地：茨城県古河市本町2丁目

アクセス：車 東北自動車道館林ICから約20分  
電車 JR宇都宮線古河駅から徒歩約1分

### 《Information》